

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○同年実施事業

教育総務課 1/1

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果	
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度				
I	教 育 委 員 会 の 活 動		(1) 教育委員会の会議の運営状況	ア 教育委員会会議の開催回数 イ 教育委員会会議の運営上の工夫	教育委員会会議の開催 教育委員会会議の運営	定例会：毎月1回年間12回 小・中学校及びその他市立の教育施設での開催(年間5か所)	○定例会：毎月1回年間16回開催 議事 25件、報告49件、その他の事項51件 ○小・中学校等での開催状況 5/12南小、6/16白岡中、8/5中央公民館、10/14菁菰小、12/16白岡東小、1/13生涯学習センター 【成果】 定例会及び臨時会は、会議規則に基づき開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、開催場所を年間6回小・中学校、その他の市の教育施設を利用するなど会議の運営方法を工夫することにより、学校の運営状況や教育施設の現状等を把握することができました。 会議内容は、報告及びその他の事項が会議の大半を占めていますが、活発な意見交換がなされ充実した会議運営が図られました。	B	毎月の定例会議は各小中学校と管理下の教育施設を利用して行われ、活発な意見のもと適切に運営されている。同時に各学校や施設等の現状と課題を直接把握することができており、効果をあげている。	学校現場や生涯学習の課題について共有を図るとともに、保護者、地域住民の意見を踏まえ、課題解決等に向けた適切な対応を取ることができるように努めます。 また、教育委員会の会議運営については、常に社会の変化に対応できるように心がけ、工夫をしながら会議の活性化を図ります。	B
			(2) 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	ア 教育委員会会議の傍聴者の状況 イ 議事録の公開、広報・広聴活動の状況	教育委員会会議の傍聴者の状況 議事録の公開、広報・広聴活動の状況	会議傍聴者の増加 白岡市情報公開条例に基づく公開請求への対応 広報紙、ホームページ等の媒体を活用した情報発信	○会議傍聴者の状況 27名 ○会議開催日の事前周知 年度当初に広報紙及びホームページで年間開催計画を公表 ○議事内容の事前周知 定例会開催前に、ホームページで議事内容を公表 ○議事録の公開 会議録をホームページで公開 ○ホームページ等での情報発信 教育委員会ホームページでの情報発信、広報紙で教育委員会関係の計画や情報の提供 【成果】 会議の公開や広報紙を活用し教育委員会情報の提供が図られました。	B	毎月の定例会議は各小中学校と管理下の教育施設を利用して行われ、活発な意見のもと適切に運営されている。同時に各学校や施設等の現状と課題を直接把握することができており、効果をあげている。	市ホームページに教育委員会会議の日程や議事内容を掲載するなど、市民に対する情報提供を継続して図っていきます。 また、市の公式ホームページや広報紙などを活用しながら教育施策や様々な教育情報等を発信し、教育委員会の活動等をより多くの市民に周知する努力を続けていきます。	B
			(3) 教育委員の自己研鑽	ア 研修会への参加状況	教育委員の研修会への参加	各種研修会への参加 教育に係る施策等の情報提供	○各種研修会への参加状況 毎年開催されている埼玉県教育委員会連合会講演会等の研修会、講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となりましたが、新たに文部科学省主催のオンライン研修に参加しました。また、制度改正や教育を取り巻く現況等関係機関からの資料について情報提供等に努めました。 市町村教育委員会オンライン協議会 9月2日 地域と学校の連携・協働について 過疎地域の小規模校の在り方について 2月10日 学校における働き方改革について 教育の情報化について 【成果】 会議等の資料で得た教育環境を取り巻く現状などの情報の共有化が図られました。	C	新型コロナ禍であり、大勢が集まった研修会には中止されているが、文部科学省主催のオンライン研修に参加したり、各教育機関からの資料を収集し活用するなど、各教育委員が適切な自己研鑽に努めている。	教育委員会の審議において、適切な判断と決定を行うためには、新たな教育課題等に関する知識の習得や情報交換などが重要です。新型コロナ禍の状況にあっても十分な情報が得られ、さらなる自己研鑽に努められるよう工夫します。	C
			(4) 学校及び教育施設の状況把握	ア 学校訪問 イ 教育施設訪問	学校訪問の状況 教育施設訪問の状況	学校訪問 市内全小・中学校を訪問 教育施設を訪問	○学校訪問の状況 4/21に教育委員4名、教育長含む事務局職員8名で藤津小、大山小、西小、菁菰中、南中を訪問し、学校の状況把握に努めました。 ※ 菁菰小、南小、白岡東小、白岡中については、教育委員会定例会開催時に併せて学校訪問を実施。 ○教育施設への訪問状況 8/5 中央公民館 1/13 生涯学習センター 【成果】 市立の教育施設を訪問することにより、各施設における事業の取組や施設・設備の状況を把握することができました。	B	学校の児童・生徒の学習状況や管理下の教育施設・設備の管理については、教育事務所との合同訪問視察等を行い、厳しい管理・運営が実施されている。その結果、安全管理や事故防止が徹底され、安心・安全な教育環境が適切に維持されていることを評価する。	学校現場及び各教育施設の現状やこれらに対する多種・多様な市民ニーズ、地域の実情等を的確に把握するため、引き続き、学校及び教育施設を計画的に訪問します。 また、把握した学校現場及び各施設が抱える課題解決のため、施策に活かすよう努めます。	B
			(5) 教育委員会と首長との連携	ア 総合教育会議への出席(教育制度改革により総合教育会議は首長が主宰)	総合教育会議への出席	総合教育会議への出席 首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育のあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ります。	○総合教育会議への出席 5/12 小・中学校GIGAスクール構想推進事業について 11/11 第3期白岡市教育振興基本計画(案)について 3/10 第3期白岡市教育振興基本計画を教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱とすることについて 【成果】 小・中学校GIGAスクール構想推進事業については、現状や課題等を把握し、解決に向けた意見聴取を行うことができました。 また、第3期白岡市教育振興基本計画(案)については、第2期計画の検証や課題について議論し第3期計画策定に向けた意見を聴取することができました。	B	市長主催の総合教育会議が今年度は3回開催され、本市の教育の現状と課題が明らかにされ、「第5次白岡市総合振興計画」に基づき、行われている。 市長自らが教育現場に足を運び、実態把握に努めていることを高く評価する。	当市における教育の現状と課題等に対する市長と教育委員会の認識の共有化を図り、教育行政のより一層の充実・発展に向け、総合教育会議を開催し、市長と教育委員会の連携・協力体制を構築してまいります。	B

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
II	活 か あ る 学 校 づ く り	(1) 子どもの輝く学校(輝く)	A 基礎・基本の確実な定着	「学力」、「規律ある態度」、「体力」の3つの分野について、各学年で確実に身につけるべき基礎的・基本的な内容を定着させるとともに、人間関係を基盤とした豊かな心の育成を進めます。	「学力」、「規律ある態度」、「体力」の3つの分野について、児童生徒の資質や能力をバランスよく育成します。	<ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県学力・学習状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率が、小学4年生から中学3年生までの全ての教科で県平均を上回りました。 ・「学力の伸び」では、小学4年生から中学3年生までの全ての教科で、県平均と同等または上回りました。 ・「規律ある態度」の質問紙調査(小学4年～中学3年)では、72項目中55項目(76.4%)で県平均を上回りました。 ○全国学力・学習状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、小学6年生の国語、中学3年生の国語・数学において、県平均及び全国平均と同等、もしくは上回りました。 ・小中学校ともに、基本的な生活習慣(規則正しい起床・就寝、朝食)については、好ましい結果となっています。また、すべての質問項目において、小中学校ともに、県及び全国と比べ概ね好ましい回答状況となっています。 ○児童・生徒の新たな力テストの結果は、小学校：1～6年の男子は、48項目中26項目で、女子は34項目で県標準値を上回りました。中学校：1～3年の男子は、27項目中11項目で、女子は、9項目で県標準値を上回りました。 ○教育課程研究推進委員会の開催(2回) <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用状況について(校内・家庭) ・教育課程編成上の変更点について(令和2年度との比較) ○埼玉県学力・学習状況調査の活用について(県教育局担当指導主事より講演) 		<p>新型コロナウイルス禍で、集団的行事が制約を受けるなか、感染対策を講じながら可能な限りの様々な工夫をして指導に当たっている。</p> <p>授業においては、ICTを活用した授業を展開し、児童・生徒一人1台のタブレットを配布しての授業改善は大きな力を発揮している。</p> <p>今年度も、全国や県の学力調査においては、すべての教科で上回っており、その効果を高く評価する。反面、体力の面においては、県平均を下回る項目もあり、今後の体力向上を図る努力を期待する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の終息がまだ見えない中、学校では感染症対策に万全を期した上で、学校運営を継続しています。</p> <p>今後、国や県の通達等を学校に周知・指導し、感染対策をしながら、子どもたちの学校生活をどのように充実させていくかを考え、教育活動を進めていきます。体験活動の充実という点では、現在の社会情勢を鑑みると、コロナ禍以前と同様の取組を進めることは難しい状況です。特に、校外で行う活動や、外部から人を招いて行う授業の場合、相手方への配慮も必要となります。しかし、すべての教育活動を中止するのではなく、感染対策を講じた上でできることを模索し、子どもたちの学びを止めない教育活動を実施していきます。</p>	
			I 個に応じた指導の充実	教育補助員、教科指導補助員等の補助員や市職員担任職員等の配置により、児童・生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図ります。	補助員等を効果的に配置することにより、個に応じた支援の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○補助員等の配置(学習や生活の補助等) <ul style="list-style-type: none"> ・教育補助員(小・中学校)23名 ・教科指導補助員(小・中学校)8名 ・日本語指導補助員 3名 ・支援相談員(全小学校)6名 ・さわやか相談員(全中学校)4名 ・理科支援員(全小学校)3名 ・ICT支援員 1名 ・GIGAスクールサポーター4名 ・教育補助員(言葉の教室)1名 ・教科指導員(図書支援)3名 	B	<p>学習や生活を補助する教育補助員や教科補助員等47名を配置し、個々に応じたきめ細やかな指導を行っている。今後は、ICTの活用の確認や、GIGAスクール構想のさらなる推進をめざしての補助員等の増員を期待する。</p>		
			ウ 体験活動の積極的推進と豊かな心の育成	体験活動を軸とした「総合的な学習の時間」を活用するとともに、特別活動、道徳教育や人権教育の充実を図り、心豊かな児童・生徒を育成します。各校における体験活動の推進とその内容の共有化および改善を図ります。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を徹底しながら、可能な範囲での体験活動の充実を図ります。また、道徳教育を中心とした「豊かな心」の育成を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の充実と人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針(各校のHPで公開) ・特別の教科道徳の授業の着実な実践 ・家庭用「彩の国の道徳」の周知 ○埼玉の子ども70万人体験活動(全校) <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験チャレンジ ※新型コロナウイルス感染予防のため中止 ・みどりの学校ファーム(全校) ○学校図書館整備のための補助員の配置(3名が10校を巡回) ○計画的な図書購入による学校図書館の蔵書の充実 ○長期休業中の読書の啓発(夏休み、冬休み) ○部活動ボランティア指導員の配置 21名(篠津中7名、青我中1名、南中8名、白岡中5名) ○休日の部活動の地域移行の実証研究の実施(運動部8、文化部2) 		<p>体験活動が新型コロナウイルス禍で制限されるなか、様々な工夫をこらした活動を展開していることを評価する。また、部活動の指導に対しては、各校のボランティア指導員を21名配置したり、県の施策と連携して活性化を図っている。</p>		
エ 国際化・情報化社会への推進	外国語教育及び国際理解教育の強化を図ります。また、ICT機器の有効活用など情報教育の充実を図り、わかる・できる・いかにせる授業づくりを推進します。	英語指導助手(ALT)の効果的な活用を図ります。GIGAスクール構想を推進し、学習者用1人1台端末の効果的に活用します。	<ul style="list-style-type: none"> ○英語指導助手(ALT)の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 2名(小学校全6校に2名を配置) ・中学校 4名(各中学校に1名配置) ○児童・生徒向け英語学習用動画の提供(ALT派遣元ポーターリンク社より提供) ○デジタル教科書や学習者用タブレット端末(iPad)に導入した協同学習ソフトやドリル学習ソフトの活用(全校) ○教職員向けの学習者用端末活用研修会の実施(1回) 		<p>英語指導助手を中学校4名、小学校2名を配置し、外国語教育の充実に向け、他市をリードしていることを評価する。また、デジタル教科書や学習タブレットなど最新教育機器を導入して、効率的な学習を推進していることを評価する。</p> <p>可能ならば、全小学校にALTを配置することを期待する。</p>					
<p>【成果】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、各校で感染症対策を講じながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を行いました。全国学調、県学調ともに概ね平均と同等もしくは平均を上回り、高い水準を維持しています。GIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒に1人1台のタブレット端末が整備され、授業での活用が進んでいます。</p>										

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
1	活	カ	あ	る	学	校	つ	く	り	B
		(2) 魅力ある学校(導く)	ア 信頼される教職員の育成	教職員の研修を計画的に実施し、教職員一人一人の資質向上を図り、指導力のある信頼される教職員の育成に努めます。特に、道徳教育をはじめ今日的課題に対応した研修の充実を図ります。	教職員の研修を計画的に実施し、教職員一人一人の資質・能力を高めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○人事評価制度を活用した人材育成や能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標設定の提示(当初申告面談、校長会、教頭会) ・評価者研修会の実施(校長、教頭各1回) ○白岡市教育委員会・東部教育事務所教育支援担当学力向上推進担当学校訪問(7校実施、新型コロナ感染拡大防止のため、3校は訪問なし) ○年次別研修による指導力向上(1人1回指導主事が訪問) <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修 13名※新型コロナ感染拡大防止のため回数減 ・2年次研修 3名※新型コロナ感染拡大防止のため回数減 ・3年次研修 ※新型コロナ感染拡大防止のため中止 ・7年次研修 8名 ・臨時的任用教員研修 15名 ○白岡歴史・史跡研修会(初任者、転入者対象) ○夏季教職員研修会(特別支援教育、ICT活用) ○教職員全員研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育 ※動画配信 ・中間発表(大山小、南中) ○白岡市教育の日研究発表(菁莪小、菁莪中)※動画配信 		<p>教育は児童・生徒と教員の信頼関係のもとに成り立つ。信頼される教員の育成は不可欠のことであり、教員の資質の向上が強く求められる。</p> <p>本市では、各校の有能な中堅教員を指導者として任じ、若手教員の育成に力を注いでいる研修システムがあり、大きな成果をあげていることを評価する。</p>	<p>人事評価制度の適切な運用を通じて、教職員の意欲を引き出し、学校の教育力の向上を図りました。教員の年次研修については、新型コロナ感染拡大防止を図りながら、引き続き研修を実施し、教員の資質能力の向上を図ります。中堅教員を若手教員の指導者とするについては、できる限り実施したいと考えています。</p> <p>特別支援教育については、県立特別支援学校のセンター的機能を積極的に活用し、児童生徒一人一人により適切な支援ができるよう充実を図ります。</p>	
		イ 特別支援教育の充実	特別支援学級の設置、補助員等の配置等に加え、「支援者制度」の活用を努めながら、個別の教育的支援が必要な児童・生徒に対するきめ細かな支援体制を整え、ノーマライゼーションの理念に基づく教育の充実を図ります。	共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育システムの構築に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・篠津小(知的学級1、自閉情緒学級1、難聴言語通級指導教室1) ・菁莪小(知的学級1、自閉情緒学級1) ・大山小(知的学級1、自閉情緒学級1) ・南小(知的学級2、自閉情緒学級2、肢体不自由学級1) ・西小(発達障害・情緒障害通級指導教室1、知的学級2、自閉情緒学級2) ・白岡東小(発達障害・情緒障害通級指導教室1、自閉情緒学級1) ・篠津中(知的学級1、自閉情緒学級1) ・菁莪中(知的学級1、自閉情緒学級1) ・南中(知的学級1、自閉情緒学級1) ・白岡中(知的学級1、自閉情緒学級1) ○就学支援委員会の開催(4回) <ul style="list-style-type: none"> ・適切な就学の支援・助言、継続的な児童・生徒の状況把握 ○専門委員会学校訪問(19回) ○専門委員会による教育相談※新型コロナ感染拡大防止のため中止 ○補助員等の配置【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・教育補助員(小・中学校)23名 ・支援相談員 6名 ・さわやか相談員 4名 ○支援者の実績(菁莪小学校、西小学校、菁莪中学校の3校へ) <ul style="list-style-type: none"> ・県立久喜特別支援学校より ・県立宮代特別支援学校より 	B	<p>本市では、全小・中学校に特別支援学級を設置する体制をとっており、共生社会の実現に対応している。また、県立久喜特別支援学校や宮代特別支援学校との連携を図り効果をあげている。指導にあたっては、多くの補助員を配置したり、推進委員会を設置し、特別支援教育に対する支援体制を充実していることを評価する。</p>			
					<p>【成果】</p> <p>人事評価制度については、校長・教頭を対象とした評価者研修会を実施し、評価の際の客観性を高めるとともに、適正な評価の実施に努めています。</p> <p>授業研究を中心とした研修は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数を減らして継続しました。今後は、中堅教員を指導者とする形に戻していく予定です。</p> <p>夏季休業中は、今日的な課題として、1人1台端末の効果的な活用方法と特別支援教育についての研修を実施しました。また、研究委員会の中間発表と人権教育の研修を、動画配信で実施しました。</p> <p>専門委員会(県特別支援コーディネーター、指導主事)による学校訪問を行い、担当教職員の資質・能力の向上や、特別支援教育における支援体制の充実を図ることができました。市内の特別支援学級では、より一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行っています。</p> <p>また、特別支援学校のセンター的機能を活用し、多くの学校で児童生徒への支援方法等について、コーディネーターと協議しました。</p>					

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

教育指導課・教育総務課 3/5

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・ 「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
II	1	(2) 魅力ある学校(導く)	ウ 教育環境の整備・充実	よりよい学習活動が展開できる教育環境の充実を図ります。	職員による学校安全点検の充実を図ります。	<p>◎職員による自視及び打診を併用した安全点検を継続実施しています。</p> <p>また、市立中学校劣化状況調査の結果と照合し、安全点検の精度を上げるとともにクラックに対するシーリング処理などを実施しています。</p> <p>安全点検は月2校を目途に実施</p>	B	<p>各教室にエアコンを設置、トイレの洋式化、全校に防犯カメラを設置、災害等に備えて太陽光発電設備を設置するなど着実に整備が進んでいることを評価する。</p> <p>市立中学校校舎外壁の劣化度調査を実施するなど、安全のための対策が推進されていることを評価する。</p> <p>また、給食や環境の安心・安全については、放射能検査が継続されており、異状無しの状態が続いていることを評価する。</p> <p>各小・中学校図書蔵書率は平均100%を越えている。図書補助員を全校に配置するなど学校図書の充実を図っていることを評価する。</p>	<p>市立中学校3校(篠津・菁莪・南中学校)について、外壁の劣化状況調査を実施し、調査時点では、一番危険性の高いA評価とされた校舎はありませんでしたが、B評価の校舎を中心に部分的な修繕を実施しました。しかし、市内校舎の老朽化対策は喫緊の課題と捉えており、令和2年2月に策定した「白岡市個別施設計画(学校施設)」に基づき計画的な長寿命化改修、大規模改修の実施に努めます。</p> <p>学校図書館の蔵書率は、国の基準を満たしていますが、今後は古い資料や本等の更新や、蔵書数の多い物語だけでなく、色々な分野の蔵書を増やす等、引き続き学校図書館の充実を図ります。</p>	B
				市立中学校外壁劣化状況の調査を行います。	<p>◎市立中学校3校(篠津・菁莪・南中学校)について、赤外線・打診併用による外壁の劣化状況調査を実施しました。調査時点では、危険性の高い緊急修繕の必要性は指摘はなされませんでした。ただし、篠津中学校や菁莪中学校でモルタル浮きとクラックの複合した箇所が見受けられたため、部分的な修繕を実施しました。</p>					
				小規模特認校制度により、少人数教育の良さを生かします。	<p>◎少人数教育のメリットを生かし、きめ細やかな指導や特色ある教育を進めることができました。このような環境での教育を保護者や児童が希望する場合は、従来の通学区域は残したままで、学校選択制の一つとして市内全域から児童の就学を認めています。令和3年度は2名の児童が編入しました。</p>					
				学校図書館の有効活用や教材備品の整備を推進します。	<p>◎学校図書館の蔵書率の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年12月における蔵書率は、小学校108.5%、中学校98.5%に推移 <p>◎学校図書館整備のための補助員の配置 4名(全校に配置)【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校を週1日、各中学校を2週に1日巡回 <p>【成果】</p> <p>学校の安全確保については、職員による点検を継続しつつ、専門業者による中学校3校の外壁劣化状況調査を実施しました。調査時点では、緊急修繕の必要性がある危険箇所は無いとの判断を得ましたが、劣化が進んでいる箇所を把握することができたため、部分的な修繕に繋げることができましたので、引き続き安全確保に努めていきます。</p> <p>蔵書率は、古い資料の整理や、学級数が増加したことによりやや減少しています。学校により差もあります。引き続き、計画的な図書購入を進めていきます。</p>					

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

教育指導課・教育総務課 4/5

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
1	活 カ あ る 学 校	(3) 開かれた学校(結ぶ)	<p>ア 家庭・地域との信頼関係の強化</p> <p>イ 家庭・地域・学校の交流の推進</p> <p>ウ ふるさと意識の醸成</p> <p>エ 広報活動の充実</p>	<p>家庭・地域との信頼関係の強化に努めます。</p> <p>地域の人材の活用や各小・中学校の学校応援団活動を支援し、地域と連携した学校支援活動を活性化します。また、幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校の交流を促進するとともに、小・中一貫教育を見据えた滑らかな接続を図ります。</p> <p>地域の食材や郷土料理を学校給食に導入したり、社会科副読本を活用し、地域学習を推進したりしながら、ふるさと意識の育成を図ります。</p> <p>「広報しらおか」、学校だより、各小・中学校ホームページなどによる情報提供の充実を図ります。</p>	<p>各小・中学校における学校公開をはじめ、積極的な情報発信を行うとともに、学校評価や学校関係者評価を生かした改善を行い、保護者や地域から信頼される学校づくりに努めます。</p> <p>学校応援団の活動等、地域と連携した活動を支援します。</p> <p>ふるさと意識の醸成につながる取組を推進します。</p> <p>教育委員会や各小・中学校の取組を積極的に広報します。</p>	<p>○市内共通学校評価の実施</p> <p>○各学校での学校評価の実施と結果の公表</p> <p>○人事評価制度に伴う校長面談(3回)</p> <p>・具体的な目標設定の提示(校長会、教頭会)【再掲】</p> <p>○学校応援団の活動</p> <p>・新型コロナの関係で、各校の実情に応じて中止、または規模を縮小して実施しました。</p> <p>○幼保小連絡会(1回) ※新型コロナ感染拡大防止のため回数減</p> <p>○部活動ボランティア指導員の配置 21名【再掲】</p> <p>・篠津中7名、菁莪中1名、南中8名、白岡中5名</p> <p>・サッカー、バスケットボール、バドミントン、ソフトボール、剣道、野球、ソフトテニス、バレーボール</p> <p>○休日の部活動の地域移行の段階的实施 運動部8、文化部2</p> <p>・篠津中：剣道、野球、男子ソフトテニス</p> <p>・菁莪中：男子バスケットボール、吹奏楽</p> <p>・南中：バレーボール、野球、女子ソフトテニス、吹奏楽</p> <p>・白岡中：女子ソフトテニス</p> <p>○小学校社会科副読本編集委員会(3回)</p> <p>・よりよい副読本を目指し、部分改訂を実施。統計・資料の見直しを図るとともに、授業が主体的・対話的で深い学びとなるよう内容を刷新しました。また、一部の内容では、タブレット端末を活用しての学習が可能となりました。</p> <p>○白岡歴史・史跡研修会【再掲】</p> <p>○埼玉の子ども70万人体験活動(全校)</p> <p>・みどりの学校ファーム【再掲】</p> <p>○女子栄養大学学校給食・食育研究室と連携し、給食だよりに埼玉県産品の啓発や地場産物を使用した家庭で作れるレシピを掲載。(令和3年11月～令和4年3月)</p> <p>○教育委員会ホームページにおける情報提供</p> <p>・学校開庁日の実施、子どものネット利用宣言、部活動指導のガイドライン等学校教育に関わる内容を掲載</p> <p>○学校ホームページの充実促進</p> <p>・校長会、教頭会をとおして、各校の最新情報や、全校で共通して掲載する内容を依頼</p>	B	<p>市内共通の学校評価を行い、その結果を公表したり、学校公開や情報発信している。また、学校評議員制度や、新たに学校運営協議会を設置し、開かれた学校づくりを推進していることを評価する。</p> <p>中学校の部活動の指導においては、ボランティア指導員を21名配置したり、休日の部活動の地域移行を進めるなど、地域の教育力を大いに活用している。また、幼・保・小連絡会や学校応援団を組織し、地域との連携を強化していることを評価する。</p> <p>「緑の学校ファーム」を全校に配置して農業に親しませたり、小学生用の「社会科副読本」の改訂を継続して行うなど、ふるさと意識の醸成に力を注いでいる。また、女子栄養大学と連携し、学校給食メニューの新しいレシピを開発したり、給食で地産地消の意識を醸成していることを評価する。</p> <p>教育委員会ホームページにおける情報提供を行うとともに、各小・中学校のホームページの充実促進を図り、家庭・地域への情報発信を行い理解を図っている。</p>	<p>学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい学校づくりのための課題としてとらえ、改善していきます。現在設置している学校運営協議会のよい取組、課題等を共有し、令和3年度中に令和4年度からすべての学校に学校運営協議会を設置する準備を進めていきます。</p> <p>家庭・地域の連携については、今後、新型コロナウイルス感染症のため実施できなかった取組を、実施方法を工夫して開催できるようにしていきます。</p> <p>地域部活動については、保護者の費用負担や地域部活動にかかわる関係者の認識、適切な指導者の確保等に課題があります。令和4年度は、教育委員会から各学校や指導者、保護者に対して丁寧な説明を行っています。また、安心安全な指導、指導内容の向上のための指導者講習会の開催についても検討していきます。</p> <p>女子栄養大学と連携しながら、地域食材を活用したメニューを開発し、ふるさと意識の醸成を図るとともに今後も継続して、地域の食材を積極的に取り入れた給食を提供していきます。</p>	B

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

教育指導課・教育総務課 5/5

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果		
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度					
1	活	(4) 安心・安全な学校(守る)	ア 教育相談の充実	いじめ、不登校及び人間関係に悩む児童・生徒一人一人に対し、きめ細やかに対応できる相談体制の充実を図ります。	きめ細やかに対応できる教育相談体制の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○相談員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ・支援相談員(全小学校に配置 6名) ・さわやか相談員(全中学校に配置 4名) ・スクールカウンセラーの配置 <ul style="list-style-type: none"> 小学校に1名(兼務 各校1か月に1回)、 中学校に3名(兼務あり 毎週または隔週) ・臨床心理士の配置(教育支援センターに配置 週1回 2名) ○教育相談連絡会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校18回、中学校12回、合計30回 ※新型コロナウイルスの関係で回数減 ○教育支援センター・・・現在18名の児童生徒が通室 <ul style="list-style-type: none"> ・主任支援員1名、支援員7名、臨床心理士2名の配置 ・教育支援センター教育長訪問(1回) ○スクールソーシャルワーカー <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センターに県費1名、市費1名の計2名配置 ○いじめ防止基本方針 ○白岡市いじめ防止対策推進委員会開催(1回) ・条例を改正し、委員に法務局職員、児童相談所職員を追加 	B	<p>全小学校に支援相談員を配置、全中学校にさわやか相談員を配置。さらにスクールカウンセラーを配置するなど、いじめ対策や不登校へのきめ細やかな対応が行われている。</p> <p>また、教育相談連絡会を定例化して行い、各校の状況把握に努め、早期発見・早期対応を図っており、本市では深刻な問題が発生していないことを評価する。</p>	<p>学校におけるいじめや不登校となっている児童生徒の対応は、本市においても喫緊の課題です。いじめの未然防止、早期発見・早期対応を通して、いじめの解消に努めます。</p> <p>各学校に配置している相談員、教育支援センター等を活用し、きめ細かな教育相談ができるようにしていきます。</p> <p>子どもたちの安心・安全のため、引き続き防犯パトロールや避難訓練の充実を図ります。</p> <p>一人一台の端末の有効な活用のために、情報モラル教育のさらなる充実を図ります。改訂した「白岡市子どもネット利用宣言」に基づき、子どもたちが自分たちで正しく端末を活用できるようにしていきます。</p> <p>防犯対策は、引き続き地域の皆様のお力添えをいただきながら、教育委員会のパトロール等続け、子どもたちの安全を見守っていきます。</p>	B		
			イ 防災対策の推進	避難訓練や交通安全教室、施設・設備の安全点検・危機管理対策等を確実に実施し、児童・生徒の安全確保を図るとともに、自他の生命を尊重し、日常に潜む危険や自然災害に対する的確に判断し行動できる児童・生徒の育成を目指します。また、各小・中学校施設の災害時における避難場所としての機能の強化に努めます。	防災マニュアルの見直しや、避難訓練の実施等の危機管理対策を確実に実施し、児童・生徒の安全確保を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校管理訪問(6月、7月、10月) ○子どもたちを事件・事故から守るための防犯パトロールと小学生防災無線による呼びかけの実施 ○各学校での危機管理マニュアルの見直し・修正による危機管理体制の向上 ○交通安全教室や緊急地震速報活用避難訓練、竜巻想定避難訓練、水害想定避難訓練等の推進 					B	<p>防犯パトロールや小学生防災無線による呼びかけの放送は、長年継続して行われており、しっかりと定着し、効果を発揮している。また、全小・中学校においては、定期的に交通安全教室や避難訓練等が適切に実施され、災害への心構えをしっかりと身に付けさせることができている。</p>
			ウ 情報管理の強化	情報モラル教育や情報セキュリティ研修会を充実させ、各小・中学校における情報の安全管理の徹底を図ります。	情報教育の充実と、安全管理の徹底を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ○情報セキュリティのサーバー管理とネットワークの活用促進 ○白岡市子どものネット利用宣言の改訂 ・GIGAスクール構想の推進により、1人1台の端末が整備されたことやSNS等でのいじめなどが問題になっていることから、児童生徒による改訂委員会を実施し、内容を改訂しました。 						
エ 防犯対策の推進	学校応援団組織を生かした防犯ボランティア、スクールガードリーダー、子ども110番の家など、地域ぐるみで子どもたちの安全確保に努めます。	地域ぐるみで児童・生徒の安全確保に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校メール配信システムによる不審者情報等の配信 ○「子ども110番の家」 ・各学校に登録いただいている協力者 367軒 ○「防犯ボランティア」 ・各学校の登録ボランティア 388名 ○スクールガードリーダー研修会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ○スクールガード養成講習会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ○スクールガードリーダーの巡回活動(小学校全6校) ○市教育委員会防犯パトロール(週3回) 	B	<p>保護者への一斉メールによる不審者情報の即時配信や、全校に防犯カメラを設置したり、地域住民の協力による「防犯ボランティア」388名、「子供110番の家」367軒、学校応援団など、地域ぐるみで安全確保に努力し続けていることを高く評価する。</p>							
		<p>【成果】</p> <p>中学校全校にさわやか相談員を配置するとともに、県費のスクールカウンセラーを派遣しております。児童・生徒、保護者からの相談に応じ、児童・生徒や保護者への支援や、いじめへの対応等に成果をあげています。教職員とスクールソーシャルワーカーの連携を密にするため、SSWが教育相談連絡会に参加しました。こうした取組によりSSWの活用が各学校で定着してきています。今後は関係機関との連携が最大限に発揮できるようにしていきます。</p> <p>防災教育では、定期的避難訓練を継続的に取り組むほか、不審者対応訓練や水害に対する啓発など、防災意識や安全教育の充実、向上に努めています。</p> <p>児童・生徒や教職員の事故防止については、適宜情報提供を行い、服務規律の徹底を図っていきます。</p> <p>不審者への対応については、各学校で防犯ボランティアの協力を得たり、教育委員会によるパトロールを充実したりして、事件事故の未然防止に努めています。</p> <p>また、GIGAスクール構想の実現に向け整備された1人1台端末の活用やSNS等によるいじめなどの課題を踏まえ、児童生徒による話し合いをとおして白岡市子どものネット利用宣言を改訂しました。引き続き、適切なインターネットの利用方法を学校だけでなく、家庭でも考えていくよう啓発していきます。</p>										

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

学び支援課・いきいき教育課 1/5

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果	
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度				
1	親子の育ちあい(共育)	親力の育成事業の推進	家庭教育学級を活性化することで、学習機会の充実、子育て情報の提供を行い、親力の育成、家庭教育力の向上等を図ります。	家庭や地域の教育力の向上を図るため、市内の小中学校10校のPTA活動を通じた家庭教育学級等の開催を支援します。	家庭や地域の教育力の向上を図るため、市内の小中学校10校のPTA活動を通じた家庭教育学級等の開催を支援します。	◎家庭教育学級担当者打合せ会 5/14 ○家庭教育学級 ・市内各小・中学校(9校)に委託 ・篠津小学校 1回 373名参加 ・菁莪小学校 3回 215名参加 ・大山小学校 1回 43名参加 ・南小学校 2回 20名参加 ・西小学校 2回 学校ホームページにて公開したため、参加者数不明 ・白岡東小学校 1回 25名参加 ・篠津中学校 2回 29名参加 ・菁莪中学校 2回 14名参加 ・南中学校 2回 14名参加 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全てのPTA活動を中止としたため、実施せず ・白岡中学校 2回 306名参加	◎「親の学習」講座に家庭教育アドバイザーを派遣 小学校6校 新入学児保護者対象 ・篠津小学校 10/5 2名 ・菁莪小学校 10/4 2名 ・大山小学校 10/12 1名 ・南小学校 11/12 2名 ・西小学校 10/6 2名 ・白岡東小学校 10/18 2名 ○家庭教育アドバイザー情報交換会 5/14、8/6(書面にて実施)、1/17 ○家庭教育学級合同講座 ・第1回合同講座(動画配信形式) 演 題 「いじめと向き合うためのコツ ~コロナ禍の今、家族にできること~」 講 師 埼玉県立大学・大学院 教授 東 宏 行 氏 配信期間 6/10~24 視聴回数 1,029回 ・第2回合同講座(動画配信形式) 演 題 「ケアラー・ヤングケアラーを知っていますか ~現状と支援の必要性~」 講 師 (一社)日本ケアラー連盟 代表理事 日本女子大学名誉教授 堀 越 栄 子 氏 配信期間 11/15~30 視聴回数 509回	◎「共育」を進めるために親力の育成事業を推進している。その具体策として、市内の小中学校10校でPTA活動を通して設けている家庭教育学級等の開催の支援がある。例年であれば、各校独自の講座等が開催されて、親力を育成する事業としての役割を十分に果たしてきたところであるが、今年度もコロナ禍の影響でこうした講座等の実施回数は減少している。なかには、全てのPTA活動の中止を決めた学校もあったほどだ。このような中、昨年度は開催が見送られた家庭教育学級合同講座は、いち早くオンライン(動画配信形式)で開催された。コロナ禍が続く中で、いち早く対応したことを高く評価する。開講式及び第1回合同講座の動画は、YouTubeで約2週間配信された。その間、自由な時間に視聴できるのは利便性が高く有益だ。ただし、オンラインでの実施は、臨場感や緊張感、他学校の保護者との交流など「合同講座」がもたらす意義が希薄になるなど、欠ける点があるものも否めない。11月の講座もオンライン開催となったが、「ケアラー・ヤングケアラーを知っていますか~現状と支援の必要性~」というタイムリーな企画であっただけに、以前のように会場に参加者が集って意見交換ができなかったことは残念だ。それでも、「教育の場」を提供しようという職員らの意欲は感じられた。来年度こそ、通常の開催実施を期待する。 また、子育て情報の提供機会として、市内6小学校に派遣した家庭教育アドバイザーによる「親の学習」は確実に実施された。コロナ禍での長期間にわたる不安な時に、外部の専門的な情報提供は保護者にとって安心材料となったことであろう。今年度も参加者は少なかつたけれども、こうした情報提供の機会は今後も継続されることを期待する。 さらに、体験的な学習機会の充実を図るための施策として、今年度もウイークエンドいきいき体験活動事業が計画された。なかでも「田んぼの学校」は、市内の農家の方の指導の下、年間を通して親子で米作りを行うことにより、食べ物の大切さや生産の様子を体験し、食育の一端を担おうとする人気の事業である。昨年度は、当初の計画のうち最後の注連縄作りだけが実施されるにとどまった。今年度も、稲刈りと注連縄作りだけの実施となったが、参加した親子は田んぼの感触を楽しんだ。やはり、実体験は何事にも代えがたい貴重な経験である。そして、コロナ禍であろうと、稲の生育は待つてはくれない。毎年継続的に実施してきたこうした事業には、それなりの下地と準備が必要だ。この事業を支えている農家の方々の労もねぎらいたい。「米」の生育を見守ることで得られる体験は子どもたちにとって大変貴重だ。来年度は年間を通しての事業の実施を期待する。 その他にも、「夜の昆虫観察会」、「甲虫の標本をつくろう」、「秋の柴山沼周辺観察」等々、年間を通して多くの事業が実施されたことを評価する。身近なところでの実体験は、参加者の貴重な財産となったことだろう。今後は、こうした事業も単独でとらえるのではなく、「白岡遺産」への関心につながるよう意識づけていくことを期待する。	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各小・中学校で開設している家庭教育学級は、講座の回数を減らすなどして開催しました。こうしたことから、コロナ禍における講座の開催方法の課題が浮き彫りとなったため、今後は、家庭や地域の教育力の向上を図るため、オンラインによる開催などコロナ禍における開催方法を検討し、サポート力を強化します。 また、ウイークエンドいきいき体験活動においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、田んぼの学校の稲刈り及びしめ縄作りのみを開催しました。 さらに、例年多くの申込みがある「自然ふれあい体験教室」については、宿泊や集団行動を伴うため、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、今後の実施等について検討します。	B	B
		イ 子育て情報の提供	就学時健診を利用して、家庭教育アドバイザーによる子育て情報の提供を行います。	市内6小学校に家庭教育アドバイザーを派遣し、新入学児童の保護者を対象として、親の学習講座を開催します。							
		ウ 各種事業への保護者の積極的な参加	市内の小中学校10校の保護者を対象とした合同講座を開催し、講座への参加機会の増加を図ります。	市内の小中学校10校の保護者を対象に、コロナ禍における新しい生活様式を踏まえた開催方法(動画配信形式等)で家庭教育学級合同講座を開催し、参加者の増加を図ります。							
		エ 体験的な学習機会の充実	子どもや親子を対象とした交流・体験活動を実施し、児童・生徒の豊かな人間性や優しさ、思いやりを育むため、様々な体験活動の場を提供します。	新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しながら、ウイークエンドいきいき体験活動事業等の充実を図ります。							
III	の	ま									

<p>す な づ く り</p>	<p>(2) 地域全体の子育て支援(共働)</p>	<p>ア 「町ぐるみん白岡」の活動支援</p>	<p>家庭、地域、学校などの関係の円滑化を図ることを目的として設立された「町ぐるみん白岡」の活動の支援を行います。</p>	<p>「町ぐるみん白岡」に補助金を交付し、活動のさらなる充実を図るため、引き続き支援を行います。</p>	<p>○「町ぐるみん白岡」 ・社会教育関係団体補助金交付 ・常任理事会 4/21 ・理事会 5/21 (書面にて実施) ・普及推進委員会 8/6 (書面にて実施) ・企画運営委員会 3/22 (書面にて実施) ・5/27、7/1、9/10 (書面にて実施)、11/5、12/17、1/28 (中止)、3/29 (書面にて実施) ・広報委員会 9/9、9/27、11/1、12/13 ・我が家の約束チェックシートの配布、回収、集計(5月、11月) ・アンケートを実施(11月) 対象：小学2・5年生児童及び保護者並びに白岡在住教職員 ・「町ぐるみん白岡」だよりの発行(年1回) 3/31全戸配布</p> <p>○「町ぐるみん白岡」 ・学校応援団交流会 2/5 (新型コロナウイルス感染症の影響により、中止。) ・おやじの会交流会及び我が家の約束交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず。</p> <p>◎菁菫小学校放課後子ども教室(参加児童数：36名) 7/15 理科実験教室～君は忍者になれるか?!～ 10/21 みんなでつくるう！～オリジナル箸づくり～ 11/4 みんなでもりあがろう！～菁菫小レクリエーション～ 11/18 みんなでたのしもう！～菁菫小スポーツ大会～ 12/16 みんなでチャレンジ！～プログラミング～ 1/20 みんなでまなぼう！～魚つり大会～ 2/17 みんなであそぼう！～ドミノに挑戦～ (新型コロナウイルスの影響により実施せず) 3/17 菁菫小横断ウルトラクイズ (新型コロナウイルスの影響により実施せず)</p> <p>○「町ぐるみん白岡」 ・みんなあつまれ!! わいわいコンサートは、新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず。</p> <p>【成果】 家庭・地域・学校をつなぐ取組として推進している「町ぐるみん白岡」の活動は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きなイベントは実施できていません。そうした中でも、各委員会においてそれぞれの事業を実施することにより、家庭・地域・学校間の連携強化が図られ、地域の教育・子育て環境の向上に資することができました。 また、放課後子ども教室を実施することにより、放課後の子供たちの安全・安心な居場所を確保し、地域の方々の参画・協力を得ることで、地域の子育てネットワークを構築することができました。</p>	<p>「共働」を進める事業の実施には、家庭・地域・学校などの関係の円滑化を図ることを目的として設立された「町ぐるみん白岡」が重要な役割を果たしてきた。その活動を支援して、地域の子育てネットワークづくりを推進し、親子で取り組める体験活動の場を提供することで、これまでに多大な成果を上げてきている。同会は、『みんなで子育て・白岡アクションプラン』に基づき、家庭と地域の教育力の向上を図ることを目的に設立されたものであり、子育て関係団体、学校・教育関係機関、学識経験者、また本会の目的に賛同する個人又は法人等で組織される。こうした組織が子ども達の健全な成長を支援し見守っていることで、「共働」を進めようとする姿勢を評価する。ただし、今年度もコロナ禍により「みんなあつまれ!! わいわいコンサート」等の大きなイベントは中止となった。残念なことである。それでも、今後もPTA・学校応援団・おやじの会等との連携強化を図り、地域全体での子育て支援(共働)がしっかりと推進されることを期待する。</p> <p>放課後子ども教室は、地域の子育てネットワークづくり推進のため今年度から始まった新たな取組みである。今年度は菁菫小学校で実施されたが、来年度は拡充する方向だという。内容は様々で、参加した子どもたちは授業や家庭ではできない実験等を楽しんだ。参加者・スタッフ・ボランティアと多くの人が集うことからコロナ感染拡大への懸念もあったが、対策を徹底することで事業が安心・安全に実施されたことを高く評価する。</p> <p>学校だけでなく、教育活動サポーター等大勢で運営するこの事業が、地域の子育てネットワークづくりを構築できるような期待する。</p>	<p>令和3年度の「町ぐるみん白岡」の活動実績は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年2回の我が家の約束チェックシートの実施及び「町ぐるみん白岡」だよりの発行のみとなり、コロナ禍における活動方法が課題となっています。</p> <p>さらに、ほとんどの事業が実施できなかったこと、また、「町ぐるみん白岡」が発足して10年を経過したことから、10年間を振り返るためにアンケートを実施したので、アンケートの結果を検証し、各団体と連携し、今後の事業の見直しや発展に活かします。</p> <p>また、放課後子ども教室については、令和3年度は菁菫小学校で実施したが、今後、他の小学校へ拡大していくにあたり、各学校の空き教室など実施場所やスタッフの確保などが課題となっています。</p>
<p>1 親 子 地 域</p>	<p>(3) 家庭教育に対する支援(共生)</p>	<p>ア 子育てについての家庭の意識改革の推進</p>	<p>市内の小中学校10校の保護者を対象とした合同講座を開催し、家庭教育に対する意識改革を図ります。</p>	<p>コロナ禍における新しい生活様式を踏まえた開催方法(動画配信形式等)で、市内の小中学校10校の保護者を対象に家庭教育学級合同講座を開催します。</p>	<p>○家庭教育学級合同講座【再掲】 ・第1回合同講座(動画配信形式) 演 題 「いじめと向き合うためのコツ～コロナ禍の今、家族にできること～」 講 師 埼玉県立大学・大学院 教授 東 宏 行 氏 配信期間 6/10～24 視聴回数 1,029回 ・第2回合同講座(動画配信形式) 演 題 「ケアラー・ヤングケアラーを知っていますか～現状と支援の必要性～」 講 師 (一社)日本ケアラー連盟 代表理事 日本女子大学名誉教授 堀 越 栄 子 氏 配信期間 11/15～30 視聴回数 509回</p> <p>○「親の学習」講座に家庭教育アドバイザーを派遣【再掲】 小学校6校 新入学児保護者対象 ・篠津小学校 10/5 2名 ・菁菫小学校 10/4 2名 ・大山小学校 10/12 1名 ・南小学校 11/12 2名 ・西小学校 10/6 2名 ・白岡東小学校 10/18 2名</p> <p>○家庭教育アドバイザー情報交流会【再掲】 5/14、8/6(書面にて実施)、1/17</p>	<p>「共生」を進めるために、家庭教育活動を支援する事業が推進されてきた。なかでも、家庭・地域・学校の中での家庭教育力の向上を目指して市内の小中学校10校の保護者を対象とした家庭教育学級合同講座も開催が予定されていた。こうした合同講座は、核家族化や共働き世代の増加によって地域との関わりが希薄になる中で、保護者が広く情報を得られる良い機会であるとして、今年度はオンラインの開催となった。</p> <p>第1回は「いじめ」について、第2回は「ケアラー・ヤングケアラー」について、動画配信もされたこうした講座が各学校の家庭教育学級に活かされることを期待する。</p> <p>家庭教育アドバイザーについては、今年度も情報交換が行われたことを評価し、さらなる活躍を期待する。</p>	<p>家庭教育に対する支援(共生)を推進していくためには、コロナ禍においても各種事業を実施していく必要があるため、オンライン形式を含めた徹底した感染症対策を講じた上で実施し、家庭教育に対する意識改革を図ります。</p> <p>また、小学校での「親の学習」講座など例年どおり実施できた事業については、引き続き感染症対策等を徹底して実施していきます。</p>

<p>Ⅲ の き す な じ く り</p>	<p>エ 各小・中学校PTAや子ども会などの子どもに関わる団体の育成</p>	<p>市内の小中学校10校における家庭教育学級の開催を支援します。 また、各小・中学校PTAや子ども会の活動を支援します。</p>	<p>市内の小中学校10校にPTA活動を通じた家庭教育学級の開催を委託し、打合せ等の開催及び各学校に事業実施のための委託金を交付します。 また、市PTA連絡協議会や市子ども会育成連絡協議会へ活動補助のため、補助金を交付し、子どもたちの健全育成活動のさらなる充実を支援します。</p>	<p>○家庭教育学級担当者打合せ会 5/14【再掲】</p> <p>○家庭教育学級【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各小・中学校（9校）に委託 <ul style="list-style-type: none"> ・篠津小学校 1回 373名参加 ・菁莪小学校 3回 215名参加 ・大山小学校 1回 43名参加 ・南小学校 2回 20名参加 ・西小学校 2回 学校ホームページにて公開したため、参加者数不明 ・白岡東小学校 1回 25名参加 ・篠津中学校 2回 29名参加 ・菁莪中学校 2回 14名参加 ・南中学校 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全てのPTA活動を中止としたため、実施せず ・白岡中学校 2回 306名参加 ・南中学校 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全てのPTA活動を中止としたため、実施せず <p>○白岡市PTA連絡協議会へ補助金を交付</p> <p>○白岡市子ども会育成連絡協議会へ補助金を交付</p> <p>【成果】 子育てについての家庭の意識改革の促進を図るため、各小・中学校のPTAと積極的に連携しながら、家庭教育学級の推進に努めました。 また、家庭教育アドバイザーの安定的な活用のための学習機会及び活動の場を提供することにより、家庭教育アドバイザーのスキルアップに資することができました。</p>	<p>B</p>			<p>B</p>
------------------------	--	---	---	---	----------	--	--	----------

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

学び支援課 2/5

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
1		(1) 学びあいまち(生涯学習)	ア「ベアーズ!しらおか」による生涯学習の推進	市民が心豊かに充実した社会生活が送れるよう市民の意向や時代のニーズに応じた多様な学習機会と場の提供を行い、市民の主体的な学習を支援します。	生涯学習体系「ベアーズ!しらおか」の普及に努めるとともに、その中核となるベアーズ!アカデミー、公民館講座を開催します。	<p>○ベアーズアカデミー</p> <ul style="list-style-type: none"> 6講座16回 開催 生涯学習センター〔こもれびの森〕多目的ホール 外 延べ309名 動画配信(文化) 再生回数98回 <p>○学校開放講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 埼玉県立白岡高等学校「実感する地学」 10/17 9組17名 埼玉県立白岡高等学校「葉脈標本をつくる」 12/5 6組13名 篠津小学校「吃音って?～吃音を知り、吃音についてみんなで一緒に話しませんか～」 2/19 12組21名 <p>○公民館前期講座(全16講座 56回 延べ629名出席)</p> <ul style="list-style-type: none"> IT講座 全5講座開催を計画 実施 4講座 16回 延べ172名出席 中止 1講座 最少催行人数に満たないため 運動講座 全3講座開催を計画 実施 2講座 6回 延べ82名出席 (内1講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1月開催) 中止 1講座 講師都合のため 趣味講座 全3講座開催を計画 実施 3講座 12回 延べ142名出席 (内1講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1月開催) 学習講座 全5講座開催を計画 実施 4講座 15回 延べ190名出席 中止 1講座 講師都合のため 市民企画講座 全1講座開催を計画 実施 1講座 3回 延べ20名出席 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため12月開催) 夏休み子ども講座 全4回開催を計画 実施 2講座 4回 延べ23名出席 中止 2講座 最少催行人数に満たないため <p>○公民館後期講座(全11講座 43回 延べ321名出席)</p> <ul style="list-style-type: none"> IT講座 全2講座開催を計画 実施 2講座 8回 延べ79名出席 運動講座 全2講座開催を計画 実施 2講座 8回 延べ53名出席 趣味講座 全4講座開催を計画 実施 3講座 12回 延べ55名出席 中止 1講座 最少催行人数に満たないため 学習講座 全1講座開催を計画 実施 1講座 5回 延べ35名出席 生活講座 全5講座開催を計画 実施 3講座 10回 延べ99名出席 中止 2講座 最少催行人数に満たないため 	<p>本市では「学び楽しむまち」を目指すことを基本理念としている。こうした中で、市民の意向やニーズに合わせた学習機会を提供していくことは大変重要である。例年、生涯学習体系「ベアーズ!しらおか」の普及が進められ、歴史・文化に限らず、スポーツ・IT・趣味・料理等々、様々な講座が計画されてきた。</p> <p>今年度の「ベアーズアカデミー」は、「SDGs」「安心・安全」「しらおか学」「情報通信」「文化」「国際」の6ジャンルが取り上げられた。これだけ幅広いテーマを設定し、多くの市民が参加しやすい学習機会の場を提供していることを評価する。なかでも、「白岡市の歴史と文化」と題して「白岡市文化財保存活用地域計画」について講座が設けられたことは意義深い。</p> <p>他に、学校開放講座や公民館との連携講座も各種準備されていたが、コロナ禍の影響で講座そのものが中止となったり、参加者数が少なかったりという状況であった。それでも、市民へ学習機会を十分に提供したことを評価する。</p> <p>来年度以降も、講演会や講座等の実施方法は検討が求められることになるだろう。効果的な広報活動を展開することにも、多くの市民が安心して学んで楽しめるように、学習機会の提供が一層充実することを期待する。</p> <p>図書館では、昨年度末に策定された「白岡市子ども読書推進計画」に基づいた取組みが始まった。子ども読書養成講座では、活動プログラムを作成し、返却図書配架・おはなし会の運営補助・おすすめ図書の展示等の仕事を体験してもらっている。</p> <p>秋の読書週間を実施されたおはなし会では、この講座の修了者である小学生の子ども読書と白岡高校の生徒が読み手として参加するという機会も用意された。図書館で実際に活動してもらうことで、子ども達が本に親しむようになれば嬉しい限りである。来年度もこの事業を継続するのであれば、より多くの子どもたちが参加してくれるよう努めてもらいたい。</p> <p>他にも、夏休み子ども講座として「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」を実施し、その成果を作品展として公開した。帯もPOP(ポップ)も本の内容を知らないで作れないものだ。「こもれびの森まつり」は中止となったが、発表の場を設けることは大切だ。こうした事業は、子どもたちにとって本に親しむ良い契機となったであろう。</p> <p>お話会も各種数多く実施されており、こうした事業展開を高く評価する。</p> <p>子ども時代の読書は、想像力が養われ、心を育てるのに重要だという。現代は、デジタルで本が読める時代である。しかし、本市の読書推進計画にもあるように、実際の本に親しむ機会をできるだけ多く提供してほしい。いずれ、子どもたちはアナログとデジタルを併用するようになるであろうからこそ、子ども時代には実際の本に触れてほしいと願う。</p> <p>ギャラリーでは、企画展「白岡の昔話・伝説～語り継がれる白岡遺産～」が実施された。展示では「白岡遺産」に因んで市域に伝わる昔話や伝説を紹介した。昔話に出てくる道具等を多数展示し、理解を助けた。また「白岡ミュージアムブックレット4」を作成刊行したこと、綿繰り機や糸車を使っての「綿繰り体験」も効果的で実績を上げた。</p> <p>この展示に合わせて、図書館では上記展示に因んだ各種おはなし会が実施された。さらに企画展の関連図書案内をするなど、「こもれびの森」が複合施設であることを存分に活用していた。これらは、文化財保存活用地域計画・白岡遺産・展示・図書館活動を連動した取組みであり、高く評価する。</p>	<p>・ベアーズアカデミー</p> <p>令和2年度に新型コロナウイルス感染症拡大防止により、中止となった2講座を含めて、計画をしていたすべての講座を実施することができました。</p> <p>また、令和4年度は、生涯学習機能と資料館機能を連携させた講座の開催を計画していきます。</p> <p>今後も、多種多様な講座を開催できるよう情報交換等を行い、多くの市民に学習機会を提供します。</p> <p>・公民館講座</p> <p>公民館講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座の開催日が何度か変更されましたが、定員不足により中止となった講座以外は、概ね計画した講座を開催することができました。</p> <p>また、参加者数はかなり少なく、コロナ禍において、極力、人との接点を控えたためであると思われる。</p> <p>このような状況においても、パソコンやスマートフォンでの講座は、年配の方に人気があり、定員を超えて申込みがありました。</p> <p>なお、運動系の講座も、比較的人気がありました。</p> <p>今後も、コロナ禍における活動となることを想定されるため、新しい生活様式に対応し、利用者のニーズに即した講座の企画を図っていきます。</p> <p>市民企画講座については1講座の開催でしたが、ここでもコロナ禍が影響しており、開催することになった団体においても、募集人数を極力減らすなど、密を避ける配慮をしながらの難しい運営であったと思われる。</p> <p>また、思うような成果が得られないとの判断から、団体の参加意欲が低下し、市民企画を申請する団体が減少傾向にあります。今後も、制度の周知と協力を求めています。</p>	B	
				市民の学習ニーズの把握に努め、学習課題に対応した多様な講座の開催に努めるとともに、イベントやサークル活動などの情報を収集し、幅広い情報提供に努めます。	生涯学習ガイド、ベアーズバンクの充実を図ります。	<p>○生涯学習ガイドの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう!生涯学習」 2回(4月・10月に全戸配布) <p>○ベアーズバンク</p> <ul style="list-style-type: none"> リーダー 延べ39名 サークル 25団体 <p>○社会教育関係団体補助金交付 6団体</p> <p>○社会教育委員会議の開催 6/24</p>	<p>市民の学習ニーズの把握に努め、学習課題に対応した多様な講座の開催に努めるとともに、イベントやサークル活動などの情報を収集し、幅広い情報提供に努めます。</p> <p>また、各分野の指導者やボランティアの確保や育成を図ると同時に、ベアーズバンクの充実・活用を促進します。</p>	<p>生涯学習ガイド、ベアーズバンクの充実を図ります。</p> <p>社会教育関係団体に補助金を交付し、社会教育活動を行う団体の事業を支援します。</p>		

イ 生涯学習センターの充実

生涯学習・地域コミュニティ・文化創造の拠点として、白岡市生涯学習センター（こもれびの森）の適切な管理運営を図ります。

利用者サービス、利便性の向上を図り、生涯学習機能、図書館機能、資料館機能と連携した事業を実施します。

- ◎生涯学習センター入館者50万人達成記念事業
 - ・50万人目の入館者への記念品贈呈 6/6
 - ・記念缶バッジ、記念茶等の配布 6/8～13
- 第35回文化講演会
 - 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず。
- こもれびの森まつり
 - 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず。
- 生涯学習機能、資料館機能連携事業
 - 親子おもしろミュージアム「縄文アクセサリーを作ろう」20名（ウィークエンドいきいき体験事業共同開催）
- ◎図書館機能、資料館機能連携事業
 - ・むかしばなしのおはなし会（企画展連携おはなし会）
 - 11/20 3回21名
 - ・企画展連携テーマ展示「伝説・昔話についての本」
 - 11/16～28
- ◎生涯学習機能、図書館機能連携事業
 - ・田んぼの学校連携テーマ展示「収穫の秋」
 - 11/2～14
- 定例展示解説会ハンズ・オン・デイ
 - 毎月第3土曜日
 - 6月までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず
 - 7/17、8/21、9/18、10/16、11/20、12/18、1/15、2/19、3/19
 - 9回 延べ577名
- 令和3年度の入館者数 221,445名

ウ 図書館機能の充実

幅広いニーズに応えられる豊富な資料の整備を図るとともに、市民の学習・調査・研究を支援します。

効率的、計画的な資料の収集と提供を行うとともに、レファレンスサービスの充実を図ります。また、社会や時代に即した図書テーマ展示や、多種多様な学びの場の提供を行います。

- 総資料数 160,114点
- 図書館文学講座
 - 芭蕉「おくのほそ道」を読む・陸奥を行く芭蕉
 - 6/22、29、7/6開催 延べ21名
 - 図書館歴史講座 2/24、3/3開催 延べ56名
 - レファレンス数 4,430件
 - 映画観賞会 10回開催 延べ297名
- おはなし会
 - ・おはなし会 毎月第2～4土曜日
 - 27回開催 延べ278名
 - (4/10、17、5月、6月は中止)
 - ・ちいさい子のおはなし会 毎月第1～3金曜日
 - 26回開催 延べ503名
 - (4～6月は中止)
 - お父さんと一緒に本を読もう！
 - 8/22、11/29、2/28 延べ26名
 - (5/23は中止)
 - こどもの読書週間における事業
 - ・記念缶バッジの配布 5/1～5 計50個
 - ・「みんなてとばそう！紙ひこうき！」 5/5
 - 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
 - 夏休み子ども講座
 - 「友だちにすすめたい本の帯とPOPの作り方講座」
 - 7/28、29 延べ39名
 - ブックトーク 1回 32名
 - ブックスタート 12回 371組（ブックスタートパックのみ配布）
 - 図書館本の福袋 1/5
 - 乳児、未就学児、小学生を対象に40袋を配布
 - 第10回しらおか本の帯・POPコンクール
 - ・応募作品数
 - 本の帯部門 181点、POP部門344点
 - ・作品展示 12/1～11
 - 秋の読書週間における事業
 - ・秋の読書週間記念おはなし会 10/30 18名
 - ・埼玉誕生150周年記念展示「埼玉についてもっと知ろう」
 - 10/30～11/14
 - ◎子ども司書養成講座
 - ・8/20、21 延べ8名
 - ◎子ども司書活用事業
 - ・子ども司書活動日 10/16、30、12/18、1/15、2/19、3/19
 - ・テーマ展示「子ども司書がおすすめの本！」12/1～11
 - ◎図書館機能、資料館機能連携事業（再掲）
 - ・むかしばなしのおはなし会（企画展連携おはなし会）
 - 11/20 3回21名
 - ・企画展連携テーマ展示「伝説・昔話についての本」
 - 11/16～28
 - ◎生涯学習機能、図書館機能連携事業（再掲）
 - ・田んぼの学校連携テーマ展示「収穫の秋」
 - 11/2～14

子ども読書活動推進計画に基づき、子どもが本とふれあう機会の充実を図るとともに、家庭・地域、学校等が連携して子どもの読書を支えていくための環境や体制の整備を図ります。

子どもや親子を対象とした事業を実施するとともに、家庭や地域、学校等において子どもたちが自主的に読書に親しめるよう支援します。また、地域、学校等、図書館の連携強化を図り、子ども読書活動推進計画を着実に推進します。

【こもれびの森】は、令和3年6月には入館者50万人を達成し、記念すべき50万人目の入館者は、図書館利用を楽しんでいるという御家族で、「図書館では本を借りる楽しみもあるが、友達と会えることも嬉しいことです。」と語ってくれたという。このことは、8月に実施した中学生ワークショップにおいて、中学2年生がよく利用する施設として【こもれびの森】と【総合運動公園】を上げたことを裏付ける。ただし、そのワークショップのなかで、施設までの安全な経路が確保できないので行き方に不便を感じているという声もあったようなので、今後の課題としては、

今年度も、生涯学習センター【こもれびの森】は、コロナ禍の状況下にあっても適切に管理運営されてきたといえる。閉館時間に制限が設けられたり、大きなイベントの中止等々の影響を受けてきたが、今後も感染防止対策を怠ることなく徹底し、安心・安全な運営を継続していくことを期待する。

生涯学習機能・図書館機能・資料館機能を有する同センターは市民の憩いの場である。気兼ねなく遠出することができなかった今年度もその有用性は保持されている。今後も市民が安心して利用できる施設として、適切な管理運営を重ねて期待する。

・生涯学習センター
令和3年6月6日に生涯学習センターの入館者50万人を達成し、記念事業を行いました。今後も家族や友達との憩いの場、学びの場となるよう生涯学習センターの充実を図ってまいります。

事業については、図書館機能と資料館機能を連携した「むかしばなしのおはなし会」や生涯学習機能と図書館機能を連携した「田んぼの学校連携のテーマ展示」などの連携事業や定例展示解説会「ハンズ・オン・デイ」などを実施いたしました。今後も生涯学習センターの特色を生かした連携事業の充実を図るとともに、コロナ禍における感染防止対策を徹底した運営管理を行ってまいります。

・図書館
「白岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を推進していくための様々な取組について、定着させるとともに、さらなる充実・発展を図っていく必要があります。今年度初めて実施した子ども司書養成講座等の新規事業について、内容のブラッシュアップを行い、継続して実施していくほか、市内の幼稚園と協力して保護者を対象とした読み聞かせ講座を開催する等、新たな連携による事業にも取り組んでいきます。

さらに、子どもの読書習慣の形成には、子どもの身近に本がある環境や、子どもの身近な人が読書に親しむ姿を見ることが必要です。図書館が家族が揃って本に触れ、読書を楽しめる場となるよう、引き続き効率的、計画的な資料の収集を行い、市民の幅広いニーズに応えられる資料の整備に努めます。

また、地域の読書活動推進の担い手であるボランティアについて、今年度開催した図書館ボランティア体験講座を今後も継続して開催するとともに、図書館ボランティア活動日を設け、図書館ボランティア体験講座受講者に継続的な活動の場を提供する等、発掘・育成・活用に努めます。

市民が安心して利用できる環境を整備するとともに、地域に根ざした特色あるサービスを提供します。

施設の適切な管理を行うとともに、幅広い情報発信や多様なニーズに応じたサービスの提供を実施します。
また、市民との協働や、生涯学習センターの各機能との融合した事業を実施します。

- こもれびの森まつり（再掲）
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず。
- 布の絵本作成ボランティアによる活動の支援
毎月第2・4火曜日
- 図書館ボランティア連絡会議の開催
6/24、9/30
- 図書館ボランティア体験講座
2/19、26 延べ8名
- 図書館だより「こもれび通信」の発行
4月、6月、8月、10月、12月、2月 6回
- 公共施設に設置した返却ポストの回収
毎週火、木、土曜日 市内小中学校の回収・配送も実施

【成果】

生涯学習・図書館・公民館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数制限、ソーシャルディスタンスの確保、連絡先の確認などの感染症対策を講じながら、様々な事業を実施しました。

ペアーズアカデミーでは、6ジャンル「SDGs」「安心・安全」「しらおか学」「情報通信」「文化」「国際」を開催しました。

今年度から新たなジャンルとして、近年関心が高まっている「SDGs」を設定し、つくる責任、つかう責任と題して、SDGsの基礎からはじめて、食品のロスやごみの減少、3Rについて学び、蓮田白岡環境センターを見学するなど、学習機会を提供することができました。

学校開放講座では、市内の白岡高等学校の御協力により、参加者が体験できる講座と、校舎を会場として提供していただき、学校と家庭、地域との相互の交流を深めることができました。

中央公民館では、市民で組織する団体が自ら企画・運営・実施する学習活動事業として、市民企画講座を開催しました。また、IT講座、運動講座、夏休み子ども講座など、市民に多様な学習メニューを提供することができました。

生涯学習センター（こもれびの森）では、保守点検等を実施し、適正な管理運営を図ることができました。

図書館では、令和3年3月に策定した子ども読書活動推進計画に基づく新たな取り組みとして、子ども読書養成講座を実施しました。講座では、資料の配架・装備の体験や、本の読み聞かせの練習をし、実際におはなし会に参加して読み聞かせを体験してもらい、家庭・地域における読書活動の推進を図ることができました。

また、講座を修了した子ども読書は、白岡高校のボランティアと一緒に秋の読書週間記念おはなし会で絵本の読み聞かせを行う等、幅広い活動の場において、活躍していただきました。

さらに、複合館であるセンターの強みを活かし、生涯学習機能、図書館機能、資料館機能の連携による新たな事業として、資料館の企画展と連携した図書館のおはなし会を実施し、企画展のテーマである伝説や昔話に関連した絵本の読み聞かせや、白岡に伝わる昔話の素話を行うことで、事業の相乗効果を図ることができました。

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・ 「今後の対応方針」	評価 結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
IV	1	(2) 思いあ うまち(人権尊 重)	ア 人権教育推進 体制の充実 イ 啓発活動の充 実	関係団体及び地域の小中学校 と連携し、社会人権教育を推進 するための事業を実施します。 同和問題を始めとする様々な 人権問題を解決するため、研修 会や啓発活動を推進し、明る い人権尊重社会を築いていく諸 事業を実施します。	市人権教育推進協議会と連携 を図りながら、社会人権教育を 推進します。 また、埼玉県人権施策推進 協議会との連携により、学校人 権教育を推進するために必要な 事業を実施してまいります。 “じんけん”ふれあいコン サートの開催、人権作文の発表 を通じた社会啓発の充実を図り ます。 また、人権標語を用いた人権 教育啓発品の作成等により、啓 発活動を推進します。	○市人権教育推進協議会総会研修会 新型コロナウイルス感染症の影響で総会については、書面にて実 施。 研修会については、家庭教育学級第2回合同講座(いきいき教育 課主催)、青少年健全育成推進大会(福祉課主催)と併せて、動画 配信形式で実施。 ・演 題 「ケアラー・ヤングケアラーを知っていますか ～現状と支援の必要性～」 ・講 師 (一社)日本ケアラー連盟 代表理事 日本女子大学名誉教授 堀 越 栄 子 氏 ・配信期間 11/15～30 ・視聴者数 509名(動画視聴回数を視聴者数として いる。) ○高齢者人権問題啓発研修会 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。 ○社会教育関係団体人権啓発研修会 10/7 第30回「埼玉人権を考えるつどい」 規模を縮小で実施 32名 ○“じんけん”ふれあいコンサート 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。 【成果】 市人権教育推進協議会研修会の開催や各種研修会への職員の参加 によって、人権問題に対する理解と認識を深めることができました。 また、開催中止となった、“じんけん”ふれあいコンサートで発 表予定であった人権作文及び人権標語を小冊子とし、小・中学校に 配布することにより、啓発の機会が図られました。	○市人権教育推進協議会総会研修会 新型コロナウイルス感染症の影響で総会については、書面にて実 施。 研修会については、家庭教育学級第2回合同講座(いきいき教育 課主催)、青少年健全育成推進大会(福祉課主催)と併せて、動画 配信形式で実施。 ・演 題 「ケアラー・ヤングケアラーを知っていますか ～現状と支援の必要性～」 ・講 師 (一社)日本ケアラー連盟 代表理事 日本女子大学名誉教授 堀 越 栄 子 氏 ・配信期間 11/15～30 ・視聴者数 509名(動画視聴回数を視聴者数として いる。) ○高齢者人権問題啓発研修会 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。 ○社会教育関係団体人権啓発研修会 10/7 第30回「埼玉人権を考えるつどい」 規模を縮小で実施 32名 ○“じんけん”ふれあいコンサート 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。 【成果】 市人権教育推進協議会研修会の開催や各種研修会への職員の参加 によって、人権問題に対する理解と認識を深めることができました。 また、開催中止となった、“じんけん”ふれあいコンサートで発 表予定であった人権作文及び人権標語を小冊子とし、小・中学校に 配布することにより、啓発の機会が図られました。	人権教育推進体制の充実を図るため、市教育推進協 議会や埼玉県人権教育推進協議会等と連携した各種 研修会や啓発活動が予定されていたが、研修会は、家 庭教育学級合同研修会や青少年健全育成推進大会と併 せて、動画配信形式での実施となった。 国際化が進み、また多様化する現代社会において、 人権教育が果たす役割は大きくなっている。人権意識 を高めることに繋がっていく、こうした活動を継続し ていくことが重要で、来年度こそは実施に期待する。 「思いあうまち(人権尊重)」を社会教育の基本施 策に掲げる本市では、例年市内の小・中学生が人権問 題の作文に取組み、「“じんけん”ふれあいコンサ ート」で発表するという機会を設けてきた。この場は、 広く市内の他の学校の児童・生徒の考え方を知る良い 機会でもあったが、やはりコロナ禍の影響で当該事業 も昨年度に引き続き中止となった。感染の拡大状況か ら判断してやむを得ないことであるが、今年も中止と なったことは誠に残念である。代替措置として、今年 度も発表予定であった作文を小冊子にまとめ、小・中 学校に配布されるので、その有用性に期待する。 発表の場は失われたが、市内の小・中学生が人権問 題の作文に向き合ったという実績は残る。このこと は、本市の子どもたちがこの問題について正しい理解 と考え方をもち、身近な問題として考える啓発の場と なったはずである。各学校での取組みによるこの実績 を評価する。	すべての人が互いに支え合い、共に生きていく社会 を実現するためには、お互いがお互いの人権を尊重 し、認め合うことが大切であると考えます。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡 大防止の観点から、研修会を動画配信形式で実施し、 例年、PTA役員に限られていた研修会を多くの保護者 等の方に視聴いただきました。また、“じんけん”ふ れあいコンサートで発表を予定していた人権作文及び 人権標語を冊子にし、小中学校に配布するなど形態を 変更し、対応しました。 しかし、研修については、集会形式・オンライン形 式、それぞれメリット・デメリットがあるため、ハイ ブリッド形式での研修会の開催を検討する必要があります。 また、“じんけん”ふれあいコンサートについて も、状況に適した開催方法を検討していきます。 さらに、相手を思いやる心を育むため、地域、市人 権教育推進協議会や埼玉県人権教育推進協議会等と 連携を図り、事業の実施方法を工夫するなど、新型コ ロonavirus感染症対策を講じながら人権啓発活動を 実施していきます。	C

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

学び支援課 4/5

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
1		(3) 文化の薫り高いまち(文化振興)	ア 文化・芸術活動の促進 イ 文化財の保存と調査研究の推進	白岡らしい新たな文化の創造と発展を図るため、身近な会場において、市民の創作活動を促進します。 文化財保護法に基づき、遺跡の所在確認、範囲確認調査及び個人住宅建築に伴う発掘調査の実施及び調査報告書の刊行を行います。研究活動を行い、文化財の資料化と積極的な活用を図ります。	新型コロナウイルス感染症を踏まえ、文化講演会、ランチタイムコンサートの実施方法について検討し、開催に努めます。生涯学習センターギャラリーの活用など市民の文化・芸術活動を支援します。 埋蔵文化財の適切な保護保存のための調査を行うとともに、出土資料の整理作業を進め報告書を刊行します。また、考古資料の積極的な活用を図ります。白岡市文化財保存活用地域計画に沿って、指定・未指定にかかわらず文化財の総合的把握のための調査を行います。	◎文化講演会 新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず ◎ランチタイムコンサート 新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず ◎社会教育関係団体への補助・支援 ◎ギャラリー利用団体 17団体 ○埋蔵文化財試掘調査 4/7 茶屋遺跡 4/16 入耕地遺跡・赤砂利遺跡 4/27 神山遺跡 5/7 西田端遺跡 6/1 タタラ山遺跡 6/10 中妻遺跡 7/8 山遺跡・中妻遺跡 7/13 屋敷回遺跡 8/26 中妻遺跡 10/7 中妻遺跡 10/8 山遺跡 11/11 新屋敷遺跡 11/18 神山遺跡隣接地 1/28・29 志部遺跡隣接地 3/1・2 志部遺跡隣接地 ○発掘調査 入耕地遺跡第16地点 タタラ山遺跡第11地点 中妻遺跡第29地点 山遺跡第16地点 茶屋跡第7地点 茶屋遺跡第8地点 山遺跡第17地点 ○発掘調査報告書作成 タタラ山遺跡第8・11地点 ○市内仏像調査 2/2 青雲寺(篠津)		平成30年(2018)10月1日に閉館した生涯学習センター「こもれびの森」は、昨年6月には入館者50万人を達成した。この施設が多くの市民に利用されてきた証である。これからは、ギャラリーをはじめとする各部屋の利用状況が改善し、市民の自主的な文化・芸術活動を支える役割を果たしてもらいたいと期待する。残念ながら、文化講演会などの大勢が集まる事業は中止になる等、この施設にもコロナ禍の影響は及んでいるが、新しい生活様式の中で実施できる事業の在り方を検討し、市民へのサービス低下を招くことの無いよう努めてもらいたい。 普及事業としてのミュージアムゼミナールは、「鉄の古代史」として、夜間に実施された。この事業は、市民の学びたい気持ち、知りたい気持ちに応えた事業である。担当職員が発掘調査等で培ってきた知識、蓄えてきた知識を市民にフィードバックする場でもあり、こうしたささやかな学びの場が市民同士をつなぎ、やがて文化の薫り高いまちづくりに寄与することを期待する。 展示ギャラリーでは、文化財啓発普及事業として企画展「白岡の伝説・昔話〜語り継がれる白岡遺産〜」が開催された。これは白岡遺産に関連する内容で、これに合わせて、図書館では白岡の伝説や昔話を題材とした「おはなし会」が開かれた。こうした取組みは、白岡遺産に対する市民の興味関心を高めるものであり、事業の連携を高く評価する。 この展示スペースには、図書館利用者等も気軽に立ち寄れる場であり、今後もより多くの市民に情報提供する機会として有効活用してほしい。 文化財の保存と調査研究については、発掘調査・資料整理・報告書の刊行・発掘資料の活用と、一連の流れで確実に成果を上げていることを評価する。試掘調査・発掘調査の件数は増加し、過去10年で最多の実績を上げている。地道な業務だが、こうしたことが文化財の保存と活用を長期的に支えていくのである。また、今年度は発掘調査の現地説明会が実施された。発掘調査を見学することは、直接歴史の現場に立つことであり、非常に関心が高い。当該事業は、諸条件がクリアできない限り、毎年実施できるものではないだろうが、機会を見て実施を検討してもらいたい。 また本市では、今年度新たに「白岡市文化財保存活用地域計画」が策定された。この計画は、昨年度から準備を進めてきたもので、国の文化審議会の認定を経て文化庁長官の認定となったものである。これは、埼玉県内の市町村のなかで初の認定であり、全国でも早い時期の認定である。本市が、いち早くこの策定に着手したことを高く評価する。 今後は、この計画に沿って文化財の保存と活用を進めていくことになる。 この計画では、市民との協働による文化財の保護と、文化財を活用したまちづくりや地域おこしのため各機関における共通認識の醸成を図ることが重要である。広く市民に「白岡遺産」を認識してもらわなくてはならない。そのために、白岡遺産の活用を考えるワークショップが今年度も実施された。今後は、ほかの事業についても「白岡遺産」を意識して展開できるようにすれば、さらに効果は上がるだろう。 学校教育の場においても、例えば、柴山沼周辺の学校が、地域の特徴ある暮らしぶり等を学ばせたいと考えた場合、「白岡市文化財保存活用地域計画」の中にある「水の災いを患みに換える暮らしの知恵」が参考となるだろう。水と深くかかわった暮らしぶりなどの記録を、こうした学びの機会を利用してもらいたい。 本市には多くの文化財が遺されている。それらについて学び、価値を見出し、保護する気持ちを育てることが、市民が「ふるさと白岡」を誇りに思う気持ちへとつながっていくことだろう。 今後は、関係各所及び各事業が一層密に連携して、地域の文化財を地域の手で護り伝えることを目指し、文化財の保存と活用を努めてもらいたい。	文化・芸術活動の促進に関しては、講演会やコンサート等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送らざるをえませんでした。御指摘のとおり、市民の自主的な文化・芸術活動を支える場として、市民ギャラリー等の利用を促進し、市民の創作活動について支援を行っていききたいと思っております。 文化財の保存と調査研究の推進に関しては、埋蔵文化財調査以外にも、市内仏像調査の予備調査を実施しました。本格的調査は令和4年度から継続して実施する予定です。 また、調査研究を踏まえた伝統文化の継承と活用に関しても着実に進めていきます。 文化遺産の顕彰と生涯学習センター歴史資料展示室の活用に関しては、白岡市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財保存活用事業を展開するとともに、歴史資料展示室を核とした文化財の啓発普及事業に今後取り組みを進めます。御指摘のとおり、資料館機能と図書館機能、生涯学習機能との連携によって企画展等の普及事業を展開し、市民に広く郷土の歴史と文化に親しんでもらえるよう努めていきます。また、学校現場との連携についても、現在実施している歴史学習支援事業(出前講座)に限らず、文化財を用いた教材開発等のさらなる連携を検討、模索していききたいと思っております。	B
ウ		伝統文化の継承と活用	地域の文化財関係団体と連携し、指定文化財や伝統行事その他の文化財の保存・伝承に努めるほか、文化財保護審議会を開催し、有識者の意見聴取を図ります。	文化財保護審議会の開催や指定文化財の標柱改修事業、一般文化財の諸調査を行います。	◎白岡市文化財保存活用地域計画の認定 ○文化財保護審議会 5/20、11/24、3/11 3回 ○文化財保存活用地域計画策定協議会 11/10、1回 ○指定文化財標柱改修事業 改修2本 ○文化財解説板改修事業 改修5枚 ○資料貸出 3件 ○資料画像提供 3件 ○指定文化財追加指定検討 「タタラ山遺跡出土遺物」					
エ		文化遺産の顕彰	講座等の開催を通じて文化財に関する普及・啓発に努め、文化財保護意識の高揚を図ります。	普及事業として、各種講座の開催や新たな学習素材の調査開発を進めます。体験を伴う普及活動を図る中で、文化財の活用や文化財に因む普及事業の促進を図ります。文化財保存活用地域計画の趣旨の普及や文化財を活用したまちづくりを進めるためのイベントを開催します。 (仮称)白岡遺産保存活用市民会議の創設に向けて、市民協働の取り組みとして定例的なワークショップを開催します。	◎文化財啓発普及事業 ・入耕地遺跡発掘調査現地説明会 9/4 39名 ・定例展示解説会「ハンス・オン・デイ」毎月第3土曜日 6月までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず 7/17、8/21、9/18、10/16、11/20、12/18、1/15、2/19、3/19 9回 延べ577名 ・ミュージアム・ゼミナール「鉄の古代史」 7/1、7/8、7/15 3回 延べ6名 「縄文実験考古学2 縄文時代の装身具をつくる」 10/21、10/28、11/4 3回 延べ6名 「近世の古文書から見る白岡」 1/13、1/20、1/27 3回 延べ9名 ・親子おもしろミュージアム「縄文アクセサリーを作ろう」 10/23 20名 ・こもれびの森まつり 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施せず ・展示室だより「のよみち」の発行 4月、7月、10月、1月 ○職員出前講座・文化財巡回講師派遣等 7/29、10/17、11/20、3/5 ○ワークショップ「みんなで活かそう!白岡遺産」 8/29、9/26、10/24、11/28、12/19、1/23、2/6、2/13 8回 延べ68名 ○「白岡遺産」活用シンポジウム 2/27 32名					

ち づ く り	オ 生涯学習センター歴史資料展示室の活用	市内の文化遺産に関する学習拠点として、歴史資料展示室の効果的運営を図ります。	通史展示で取り上げることの難しい内容を掘り下げた企画展示を実施します。効果的な企画展示の開催に努めます。	<p>○文化財啓発普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「白岡の昔話・伝説～語り継がれる白岡遺産～」10/12～11/26 ・企画展図録の発行 ・歴史資料展示室紀要の発行 <p>【成果】</p> <p>文化芸術活動の促進について、多くの市民にお集まりいただく形式での事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送らざるをえず、当初の成果を挙げる事ができなかったが、市民の文化・芸術活動の発表機会を設ける意味で実施している市民ギャラリーを活用した展示事業に関しては、観覧順路を定め、消毒を徹底するなどの方策を講じることを条件に実施し、15団体の利用がありました。コロナ禍にあっても、市民の創作活動について最低限の支援を行うことが出来ました。</p> <p>埋蔵文化財に関しては、引き続き調査件数が増加しています。7遺跡の発掘調査を実施するのは、過去10年の実績では最多です。入耕地遺跡16地点では、入耕地館跡の内郭北部の状況が明らかとなり、館跡の建物配置や土地利用の状況を概ね把握することが出来ました。タタラ山遺跡では、これまで知られていなかった縄文時代後期初頭の集落展開が明らかとなりました。このことで、タタラ山遺跡から山遺跡にかけての濃密な縄文時代の集落像について市民に還元することが出来るようになるものと思われれます。</p> <p>昨年度末に策定を終えた白岡市文化財保存活用地域計画が、7月の国の文化審議会を経て文化庁長官の認定を得ました。このことについては、本年度の文化財関連事業の最も大きな成果です。今後の文化財保存活用事業の基幹をなすものとして機能するよう着実な事業展開を心掛けたいと思います。</p> <p>文化財の啓発普及事業に関しても、新型コロナウイルス感染症対策の緊急措置が発令されていた期間については事業を実施することが出来ませんでした。それ以外の時期については計画に従って実施しました。特に、「白岡遺産」活用ワークショップとシンポジウムに関しては、文化財に関して、市民とともに考え「地域の文化財を地域の手で守る」取り組みを推進する基盤づくりを進めることが出来ました。</p> <p>歴史資料展示室の企画展示についても、地域計画の認定を受けて「白岡遺産」という文言を組み込み、これまでの文化財類型に含まれない昔話・伝説というテーマを掲げて取り組みました。アンケート結果も非常に好評であり、市民の満足度も一定の水準に到達したものと理解しています。今後も企画内容にそくなら「白岡遺産」をタイトルに組み込む取り組みを実施したいと思います。</p>
------------------	----------------------	--	--	--

白岡市教育委員会の点検・評価シート

凡例：◎新規事業 ○例年実施事業

No.	政策	施策	事務・事業	事務・事業の内容	今年度の目標	I 自己点検・評価		II 学識経験者の意見(要旨)	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」	評価結果
						主な取組結果(成果、実績等)	達成度			
1	人	(4) 心身ともに健やかなまち(健康体力)	ア 生涯スポーツ事業の推進	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加につながるようスポーツ情報の積極的な提供を図るとともに、初心者でも気軽に参加できるイベントや大会の開催、各種スポーツ教室の充実、ニュースポーツの開催・普及に努めます。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら生涯スポーツの普及に努めるとともに、市民に健康づくりの機会を提供します。 今年度は、東京2020パラリンピックの気運醸成を図るため、正式種目である「ポッチャ」を取り入れた教室を行います。8/17に白岡市を通過する東京2020パラリンピック聖火リレーについては、無事に聖火が通過できるよう準備します。 また、スポーツ推進を目的とした白岡市スポーツ推進計画の作成に向けてアンケート調査を実施します。	○生涯スポーツ普及事業『ニュースポーツ教室』 6/26、7/10、7/31、11/13、11/28、1/23 市内各小学校体育館 延べ77名 種目：ポッチャ ○新体カテスト 中止 ○白岡新春マラソン大会 1/16 中止 ○雲上体験教室 2/26 中止 前橋市赤城少年自然の家 ○市民ウォーキング 3/27 中止 さいたま市北区周辺 ○東京2020パラリンピック聖火リレー 8/17(公道での走行は中止)		子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民が参加できる生涯スポーツの普及は、健康づくりを提供する機会として重要である。これまで、スポーツ推進委員と連携して実施してきた各種教室は、多くの市民が気軽に参加できる良い機会として好評を博してきた。いずれも市民の健康体力づくりに貢献するとともに、スポーツに対する関心を高めてきた。近年、注目を集めているパラスポーツへの興味及び関心も、今年度開催された東京オリンピック・パラリンピックの感激と共に高まったといえよう。本市では、パラリンピックの聖火リレーを8月に予定していたが、コロナの感染が急拡大していったため公道でのリレーは中止された。代替措置として朝霞市において全体イベントが実施され、関係者一部とランナーはこれに出席。灯された聖火は、その日のうちに白岡市に入り、【こもれびの森】のロビーで当日に限って公開された。市民にとっては聖火を間近で見ることができた訳である。 聖火ランナーが走行する時間は約30分であったが、その準備は膨大で職員は大変な時間と労力を割いてきた。聖火リレーというだけで重大事であるのに、ましてやこのコロナ禍の状況である。関係者は感染防止対策も徹底して準備を進めていただけに、直前の中止には大いに落胆したことだろう。 こうした、生涯で教える程しかない大きな記念イベントは、その場限りでなく将来にわたって人々の記憶にとどまるものである。特に子どもたちにとっては大きな財産となるはずだったが、誠に残念である。実施はかなわなかったが、関係した多くの職員の労をねぎらうとともに、その努力を高く評価する。 公道での聖火リレーは中止になったものの、同オリンピック・パラリンピックの大会は実施され、多くの感動を与えてくれた。パラリンピック種目のポッチャも、そのひとつである。 本市では同大会の気運醸成のため、大会前からニュースポーツ教室「ポッチャ教室」を実施してきた。競技の楽しさやルールを知っていた市民は、パラリンピックの観戦も存分に楽しめたはずだ。特に大会で好成績を残したポッチャは、注目度も高かった。パラリンピック終了後も、地道にポッチャ教室を開催したことは意義深い。スポーツ推進員等のスタッフが準備から運営を担って、年間を通してこの事業を支えてきた。 ポッチャは、幅広い年齢層が同じフロアで対戦できるスポーツ。ルールも簡単で、スポーツが得意でない子どもも幼児も楽しめる。良いプレイには周囲から歓声が上がりが、誰もが活躍できる。参加者からは、「ポッチャは、パラリンピックで話題になり興味があつた。幼い子どもでもできそうだなあと思ふ家族で参加した。楽しんでます！」という声がかかれた。 今年度も新春マラソン大会等の大きなスポーツイベントは、開催が見送られた。しかし、スポーツ推進委員と協力して、新しい生活様式下においても、前向きな取組がなされたことを高く評価する。こうした取組みは、多くの市民がスポーツを楽しみ、今後のスポーツ人口の裾野を広げる有効な手立てとなるであろう。 また、指定管理者制度も活用しながら、体育施設及び設備は適正に管理運営されてきた。コロナ禍による施設の利用制限はあったものの、感染拡大防止策を徹底し、適切に施設の運営を続けていることを高く評価する。 コロナ禍が、今後どのようになるかは不透明であるが、いずれにしても、市民が心置きなくスポーツを楽しめる環境を整えることを期待する。	「I及びIIを踏まえた課題、問題点等」・「今後の対応方針」 令和3年8月17日(木)に白岡市を通過する予定であった東京2020パラリンピック聖火リレーは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令により、公道での開催は中止となりました。 この聖火リレーは、市の記録にも、市民の記憶にも残るであろう大きなイベントでしたので、中止となったことは誠に残念なことですが、パラリンピック競技大会で行われました「ポッチャ」という競技を、市スポーツ推進委員とともにスポーツ教室として実施していくことも、無形のパラリンピックレガシーとなるものであると思えます。 令和4年度も、「ポッチャ」をスポーツ教室の種目として実施するとともに、新たなスポーツにもチャレンジしていきます。 白岡新春マラソン大会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年連続で中止となりましたが、令和4年度は、市制施行10周年の記念すべき年であるので、実行委員会とともに、趣向を凝らした大会になるよう取り組んでいきます。 市内体育施設に関しては指定管理者制度も活用しながら、体育施設及び設備を管理運営しています。コロナ禍による施設の休止等もありましたが、再開後は、市民の皆様が安心して利用していただけるよう新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底して運営しています。 体育施設の老朽化が進行していますが、今年度は総合運動公園の人工芝テニスコートの改修工事を予定しています。今後も計画的な改修に努め、市民が安全、安心してご利用いただけるように管理に努めていきます。 また、令和4年度から、国の「第3期スポーツ基本計画」の運用が開始され、令和5年度からは、埼玉県「第3期埼玉県スポーツ推進計画」が運用されます。本市においても、本市のスポーツ活動を推進するための基本的な方向性を定める計画として、両計画を参照し、「白岡市スポーツ推進計画」を令和6年度の運用開始を目指して策定していきます。	
	人		イ 人材の育成	社会体育団体の指導者等を対象に、研修等を実施することによって指導者としての知識・技能の向上を図ります。	研修会を計画的に実施し、スポーツ指導者の育成を図ります。	○指導者研修会等 ・生涯スポーツリーダー研修会、社会体育合同研修会、全国スポーツ推進委員研究協議会等 中止 ・体育団体指導者等研修会 3/13 中止 ○社会体育団体補助金交付 3団体(白岡市体育協会、白岡市スポーツ少年団、白岡市スポーツ推進委員会)				
	人		ウ 施設・設備の充実	学校体育施設を開放し、スポーツ・レクリエーション活動の場を提供するとともに、体育施設の充実を図ります。	利用者間の調整を図り、適正な施設利用を図ります。	○日程調整会議 7/15、11/18、3/17 ○学校体育施設利用団体数 小学校(校庭) 20団体 (体育館) 21団体 夜間照明(小学校校庭) 5団体				
IV	まち		エ 指定管理者制度の活用	利用者の健康増進を図るため、施設・設備の適正な管理運営に努めます。 民間の多様な活力や柔軟な発想を生かすことによって、住民サービスの向上と経費縮減を図ります。	利用者サービス、利便性の向上を図るため、適正な施設管理・充実を図ります。 指定管理者とともに、住民が安心して利用できるよう、適切な管理に努めます。 また、指定管理者の自主事業である水泳教室を活用するなど、多世代の利用促進に努めます。	○勤労者体育センター、市民テニスコート、総合運動公園、白岡公園野球場及びびらけあいの森公園運動広場の適正管理 ○指定管理者によるB&G海洋センターの管理者運営 指定期間 平成31年4月1日～令和6年3月31日(5年間) ○水泳教室 5～6月、9～10月、1～2月の期間で、8種目の水泳教室を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策として一般利用者のスペースを確保するために、令和3年の開催分については中止にしました。 令和4年以降については、規模を縮小して実施する予定です。				
	まち					【成果】 今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、白岡新春マラソン大会をはじめ、多くのスポーツ事業が中止となりましたが、ニュースポーツ教室については、感染症対策を講じながら実施することができました。 8月17日(木)に白岡市を通過する予定であった東京2020パラリンピック聖火リレーは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令により、公道での開催は中止となりました。代替措置として、朝霞中央公園陸上競技場において県内を走行予定であった聖火ランナーが、パラリンピック聖火をつなぎました。 同競技場において集火された「埼玉県のパラリンピック聖火」をランタンに灯して展示する「聖火ピシット」を同日に生涯学習センター【こもれびの森】において行い、304名の方にご覧いただきました。				